



Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

地区目標

中核的価値観のもと、時流対応の時
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

クラブテーマ

ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：蔵王を仰ぐ

◆司会：浦山潔 S.A.A.

◆完全 Zoom 例会



Yamagata West Rotary

第2935回例会

令和4年2月14日(月)

会長あいさつ

東海林 健登 会長



今月の23日はロータリー創立記念日であります。皆様ご存知のとおり、ロータリークラブは、1905年2月23日シカゴにてポールハリスら四人にて誕生したわけでありまして。それから15年経過後、我が国でも、米山梅吉、福島喜三次、他24名にて1920年10月20日東京ロータリークラブが創立されております。

その中心人物である米山梅吉翁が生まれたのは、維新の風吹く明治元年2月4日であります。生まれたのが、今の東京都港区新橋、父、奈良県出身の士族和田竹造の三男坊であります。不幸にも父竹造は、梅吉が5つにもならないうちに他界し、その後移り住んだのが母の故郷である伊豆の三島であります。小さい頃から成績抜群、俊敏で明朗快活文才豊かな人物でありましたので14才の頃、旧今川義元の臣下であった土地の豪農である米山家から養子縁組の申し出があったそうであります。16才で上京し働きながら勉学に励み、20才でアメリカに渡り、ベルモント・アカデミー、ウエスレヤン大学、シラキューズ大学で8年間の苦学の留学生活を送りました。帰国後、文筆家を志して勝海舟に指事しますが、その後、井上馨公爵の薦めもあり三井銀行に入社し、常務取締役になりその後、三井信託株式会社を設立し取締役社長に就任しました。

新分野を開拓しその目的を「社会への貢献」とするなど今日で言うフィランソロピーの基盤を作られたとのこととです。晩年は、財団法人三井報恩会の理事長に就任し、ハンセン病、結核、癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。

又、子供の教育のために、はる夫人と共に私財を投じて青山学院大学の初等部の前身である緑が丘幼稚園、小学校を設立いたしました。

そんな梅吉翁について、ご子息が父の思い出として後に、こんなことを語っています。

「父は若い頃にアメリカで苦学して、アメリカの教育の中のいかに他人も楽しませるかということの色々身につけて帰ってきたんでしょうね。そうした父は普段から(他人の楽しむのを見ていることほど幸せなことではない。何

事も人々からしてほしいと望むことを人々にもその通りせよ)という人生哲学をもっておりました。だから、奉仕の精神によって支えられているロータリークラブを日本に紹介したのも偶然ではありません。父が他人に勧める時は、文字通り誠心誠意、真心を込めてしたので、自分が先ず楽しかったんでしょうね。」

そんな奉仕の心に満ちた人でありたいものです。

幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 2月26日(土)に予定していたIMが延期になりました。これにともない、2月28日(月)が例会となりました。ご確認をよろしくお願いいたします。
- 本日、LINEによる理事会を開催いたします。後ほどLINEで送信いたしますので、ご確認をいただいてご返信をお願いいたします。
- 今月のロータリーレートは115円です。

委員会報告

親睦・家族委員会

会員12名、奥様が7名、2月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

ニコニコBOX

〈2月14日〉

東海林健登会長／三澤裕一氏を偲んで

とても悲しいことに2月8日、メンバーである三澤裕一さんがご逝去されました。今後彼のお話を聞けないと思うととても残念でなりません。シクシクします。

市村清勝会長エレクト／先週土曜日、久しぶりに千歳山に登ってきました。天気も良く、山形市が一望できました。とても楽しい山登りだったのでニコニコします。ぜひ皆さんも天気の日に登ってみてください。でもまだ雪がありますので、軽アイゼン(滑り止め)があったほうが安心です。

ゲスト卓話



田中 信生 氏

米沢興譲教会 牧師

皆さん、こんにちは。ロータリークラブ、日本の各地、また海外でも、講演をする機会がありましたけれど、こちらに参上できて本当に嬉しい限りです。

人生を3つに分けるとする。3原色でさまざまな絵が描かれると同じように、人生というのはある意味においてはhaving、「持つ」ですね、having。「動く」、doing。そしてbeing。この3つかなと思われます。

having。私ももう80歳ともなり、子どもの頃は物がない時代ですから、とにかく、とにかく集める。ご商売でもとにかくhavingの時代ですから作れば売れる、そういう時代もありましたね。

歴史の続く限りこのhavingというのは終わりが無い。どうしたらもっと経済を、健康を、情報を、人材を、having、得ていくか。「求めよ さらば与えられん」という言葉がありますように、何とすることも必要とする、このことが欲しいという情熱。すべては、情報でも健康でも経済でもなんとしてもそれを得たい、この情熱、それを持って今日まで来られたでしょうし、また、さらにこれからのhavingの時代、得ていくということに対して情熱、今ある状況の中でそれがさらにという時にhavingの秘密は何かと言うと、そこにはないけれどすでにあることとして言葉においてもイメージにおいても捉えていく、こういうことでしょうか。

実際に物事を得た人々は「そんなの無理だ、そんなことダメだよ」ということに対して、ならばhaving、情熱、やってみよう。「できるならば」じゃなくして「なんとしてもしてください」。出来事の中で祈りをなす時に「どうぞそうしてください」。もしできるならば」とキリストに聞いた時に、キリストはこう言ったんです。「もしできれば、と言うのか。信じる者は、大丈夫、できるんだよ」。つまり祈りも「どうかこうしてください」ではなくて「そうして下さったことを心から感謝します」まだそこにはないけれど、天が、神が、人類に与えた最高、唯一の贈り物は人間だけが未来を思い描くことができるわけです。人間は未来にその状況がなくてもそれを先取りできる、ということなんです。

次はdoingです。doing。つまり持つこと、でも今や持つことというよりも捨てることのほうが大切な時代。そうすると、持って自分のものにしてというよりもそういうものは一切いらぬ、doingを覚える。もうすでに何かたくさん持っている、学歴がある、お金があるというそういう量の時代から、doing、何を考え、何を成すかということにおいて深みのあるそういう人生をすでに生きておられるだろうと思います。

3つめはbeingです。一体そのbeingとは何ぞや。執行部の方々が講演をするために米沢まで来てくださっているいと打ち合わせをする中で、どういってお話をしたらよろしいでしょうかという時に、会員の方がですね、長年私のしている仕事、すなわちさまざまな心に宿題、不登校であったり、刑務所から出てこられたり、あるいは神経症であったり、ホモセクシュアルであったり、そういう人たちがたくさん私のいる米沢にお招きして、そういう人たちが元気になっていく。その辺の何かコツ、秘密、その辺も聞きたいところだとおっしゃったんです。それはあなたがどういってお仕事をなさり、どういう背景であろうとも、このbeingということがきつと

参考に、あるいはもうすでにそのことを生きていらっしゃるならばさらに1歩深みを増す素材に必ずなるうかと思う。このbeing、こういうことなんです。

心の宿題、不登校、万引き、神経症、なんでそういうことが起きるの。もちろん遺伝的な要素であったり環境であったり、さまざまな要因があります。しかし、あえて1つ言うならば、なぜ人は心を病むのか。beingと言うのは「存在」という意味ですが、別の翻訳を言うならば「愛」ということなんです。beingとは愛。愛という言葉はピンとこない。なぜ。つまり愛という概念が日本人にはないからです。

宗教的というか心の世界、例えば仏教の世界で言うならば愛欲、つまりそれはネガティブなものとして捉えられている。でもよくこの愛という言葉は使われ、愛が最も大切と言われるんだけどその正体、本質は何なのか。簡単です。例えばあなたが、女房から愛を感じるな、娘から愛を感じるなってことは、社長、お父さんとして、おじいちゃんとして大切にされてるってことでしょ？つまり大切にされる。ここで言う大切と言っている愛は「アガペー」という言葉なんです。アガペーとはすなわちその人のできてもできなくても、持ってても持ってなくてもdoing、あなたがそこにいるだけでいいんだよというメッセージがこのbeingメッセージというわけなんです。

あなたがそこにいるだけで父ちゃんは幸せだよと、そう言ってあげてください。つまりbeing、存在。できるかできないか、遅いか早いか、そういういわゆる比較の世界に別れを告げて、部分から幸せ全体を見るのではなく、全体から部分を見るとすべての部分に意味と価値を見いだすことができるわけだ。あなたの状況から幸せ個体を見つけるというね、それもよし。でもそうじゃなくして、全体、つまりbeing、愛という全体から部分を見るとすべての部分に捨てるものは何もない、意味と価値があるわけなんです。

東北を代表するこの山形西ロータリークラブの1人ひとりが、ぜひこのような機会に、また何か心の世界の試練を宝に変えていく、そういう新たな世界をきつと願ってやまないのですが、最後に、このお話をして終わります。

アメリカインディアンでのお話です。小さな盆地に住んでいました。その酋長が年をとりまして、「俺も年だ。次なる後継者、誰がいいかな。そうだ、希望者を募ろう」と、3人の人が「酋長になりたい！」と言いました。そこで、「これからお前たちをテストしよう。俺は小さいときにこの盆地に生まれて、あの西の山の一番高いところに登ってみたいと思っただけで、それを成すことなく人生を終えようとしている。俺の代わりに、あの一番高いところに登って来たものに酋長の座をあげることにしよう」。そして3人は出かけていきました。何日かして帰ってきました。3人ともあちらこちら傷だらけ。「登ってきてくれたか」1人目が言いました。「はい。山のてっぺんは岩でした。このかけら、これが証拠です」。そう見せて、酋長は感動しました。「ちょっと待て」。2人目が「確かにてっぺんは岩でしたけれど、その岩の上にあった苔こそ、これが象徴です」。酋長は柔らかい苔を手握りながら感動して涙した。酋長は3人目に尋ねました。「お前の証拠品は何か」と聞いたら、「何もございません」「何もないんじゃお前失格だ。物もないというならば、でもお前の顔を見る、お前が1番輝いてるな。」「私が、あの西の山のてっぺんに登って我が盆地を見れば、なんと小さなところで、ああでもねえこうでもねえって言っていた。先祖伝来のふるさとか。でも、生まれて初めてぐるりと180度向きを変えて向こう郷を見れば、それはもう肥沃な土地と遠くには湖もあり、びっくりしました。酋長！我らはこの盆地を、そこから新しい未来へ移り住もうじゃございませんか」。酋長は驚いた。そしてその通りにしたんです。すべての歴史はこのようにして作られてきました。あなたの歴史も同じです。今日は本当にありがとうございました。

本日出席 (2 / 14)

会員総数

99名

出席会員数

55名